

Ⅲ 市民活動とソーシャル・キャピタルの定量的把握

ボランティア活動を始めとする市民活動の活性化は、ソーシャル・キャピタルの培養をもたらすのであろうか（ボランティア・NPO・市民活動の社会的な意義・効果としての、ソーシャル・キャピタル培養）。

また、ソーシャル・キャピタルの蓄積は、社会の有する問題解決能力や効率性を向上させるのか（ソーシャル・キャピタルのもたらす社会成果）。

一方、ソーシャル・キャピタルの蓄積状況は、わが国ではどのようになっているのであろうか（ソーシャル・キャピタルの地域別・時系列の動向）。

ここでは、ボランティア活動を始めとする市民活動とソーシャル・キャピタルとの間に、わが国において相互に作用する関係があるのかどうかを明らかにするとともに、わが国におけるソーシャル・キャピタルの蓄積状況の定量的な把握を試み、さらに国民生活面等への効果を検討・検証する。

1. 定量分析に資する様々な指標

先述のとおり、ソーシャル・キャピタルの概念には抽象的なところが多分にあり、その測定手法も確立されているわけではない。「ネットワーク」「信頼」「規範」といった機能的な定義にしても、異なる次元の要素が並び、しかもそれぞれの内容をどのような指標で定量的に捉えるかという問題がある。加えて、それらの指標のうち、実際に活用できる調査がこれまでどの程度整備されているかという問題もある。

(1) 様々なソーシャル・キャピタル関連指標

ソーシャル・キャピタルを測定した代表的な例としては、パットナムがアメリカの州別に計算したものがあり、そこで用いた指標は、先に示した図表 11-6 である。また、現在、ソーシャル・キャピタル測定に関する包括的な指標体系を構築しようとする取組みもいくつかの国や機関で進みつつあるが、その代表的な例としては、イギリス国立統計局の調査マトリックス（図表 III-1）などが挙げられる。これらの指標が参考になると思われるが、「ネットワーク」「信頼」「規範」といったものを中心に、ソーシャル・キャピタルをどのような指標体系で捉えようとしているかを概観すると、以下のとおりである。

図表 III-1 イギリス国立統計局の調査マトリックス

次元	測定可能な側面
社会的参加	<ul style="list-style-type: none"> - 属している文化・レジャー・社会グループの数 - その関与の頻度と強度 - ボランタリー組織への関与 - その関与の頻度と強度 - 宗教活動
社会的なネットワークおよび社会的なサポート	<ul style="list-style-type: none"> - 親戚や友人、隣人とのつきあい - 仮想的なネットワーク- 接触の頻度と強度 - 親密な友人の数、近くに住む親戚の数 - 頼るべき人 - 助けてくれる人 - 生活満足度
互酬性と信頼	<ul style="list-style-type: none"> - 他人への信頼 - 親切にしてくれる人、そうでない人 - 共有価値の認識
市民参加・協力	<ul style="list-style-type: none"> - 様々な制度への信頼 - 地方もしくは国レベルの出来事への情報アクセス - 地域活動団体への参加及びその頻度 - 投票傾向
ローカルエリアの状況	<ul style="list-style-type: none"> - 物質的環境の概観 - 地域のファシリティ - その地域での生活の楽しみ - 犯罪の恐怖

(資料) Harper, Rosalyn, 2002, "The Measurement of Social Capital in the United Kingdom", Country Paper prepared for OECD-ONS International Conference on Social Capital Measurement, London.

(i) 「ネットワーク」的なものとしては、社交性、友人とのつきあいといった、個人の「日常的なつきあい・交流」の広さといった類のものと、コミュニティ活動や各種団体等の結成状況など、地域・組織への帰属や組織化の程度に関わる項目が見受けられる。

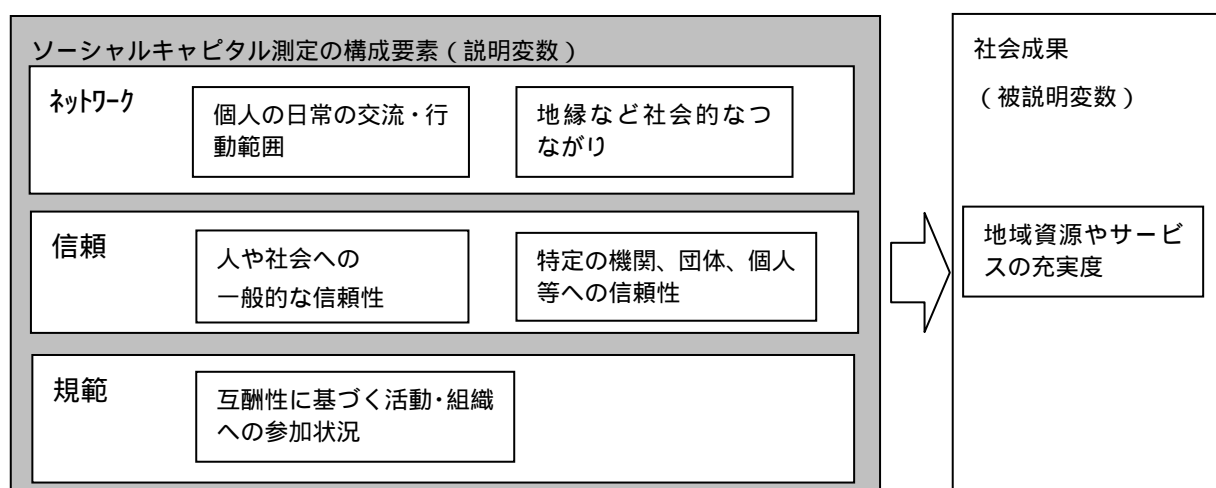
(ii) 「信頼」については、人や社会への一般的な信頼感と、特定の人、団体、政府機関等への個別の信頼性に分けられる。前者は、ダイレクトに社会成果に関係するというより、そうした普遍的な信頼性をベースに様々なネットワークや活動が生まれるという基盤・環境を示していると考えられる。一方後者については、文字通り、個々対象への信頼性という読み方もできるが、より積極的に、相互扶助や問題解決に向けた潜在的能力、あるいは社会的サポートの充実度を表しているともいえる。

(iii) 「規範性」については、パットナム自身が「互酬性の規範」と呼ぶように、

互酬性を基盤とするような社会的活動・地域活動の活性度や、そうした活動へのコミットの度合いなど、社会参加の程度に関する項目が見受けられる。

(iv)その他、投票率や自身の政治的な影響力への認識など、政治や行政に対する参加意識・意欲等に関わる項目も見受けられる。これらは社会へのコミットの度合いと捉えることができるが、必ずしもソーシャル・キャピタルの3つの要素を直接説明する指標とは言い難く、代理的な指標であるといえる。また、例えばイギリス国立統計局の体系には、地域の資源やサービスの充実度に係る項目が見受けられるが、これはソーシャル・キャピタルの構成要素というよりも、ソーシャル・キャピタルを説明変数とした社会成果 (= 被説明変数) であるといえる。

図表 111-2 既存研究にみるソーシャル・キャピタル測定 of 構成要素



(2) 我が国における定量把握に資するデータ等

わが国においては、現時点では、ソーシャル・キャピタル関連指標を包括的・体系的に捉え得る調査はなく、統計的に把握できる関連指標は限られる。時系列比較、都道府県別比較を行おうとすると、制約が一層大きい。

「信頼」関係を中心に個人の意識を捉えた調査としては、統計数理研究所の「日本人の国民性調査」、電通総研等の「世界価値観調査」などが知られている。これらは国レベルのデータであるが、都道府県別のデータが取れるものとしては、NHK放送文化研究所の「全国県民意識調査」がある。これは、隣近所づきあいなど、ソーシャル・キャピタルを測定する上で有用であると思われる項目がある程度設定されている。また1978年及び1996年の2時点で調査が行わ

れており、時系列比較を行う際利用できる数少ない調査の一つである。

これらの個人の意識調査に対して、社会経済的な側面での実際の活動を把握したものとしては、総務省統計局の「社会生活基本調査」があり、ボランティア活動など生活行動面でのデータが得られる。時系列比較や都道府県別比較も可能である。

図表 III-3 ソーシャル・キャピタルの定量把握に活用可能な意識調査

調査名	全国県民意識調査	世界価値観調査	日本人の国民性調査	7カ国価値観調査
調査主体	NHK放送文化研究所	電通総研、余暇開発センター	統計数理研究所	国民性の国際比較研究委員会
調査目的	地域の違いによる人々の意識の差に注目（地域別意識構造分析）	政治、経済、労働、宗教、家族、環境など個人を対象とした23ヶ国の国際比較	日常的な場面における普通の日本人の態度や心情について統計調査を行い、日本人のものの見方や考え方の特徴を数量的に明らかにすること	異なる文化圏に属する人々の意識構造の比較（「連鎖的国際比較調査方法」を用いた調査）
調査手法等	第1回 1978年 第2回 1996年 個人面接法、各都道府県の16歳以上、各都道府県900人、全国42,300人、12人×75地点 調査有効数全国計29,620人	1990年調査（37カ国） 1995年調査（23カ国） 両年（12カ国） 全国の18歳以上個人に対する面接調査（有効回収票1,054 / 日本）	1953年（昭和28年）以来5年おき（最新は1998年 / 平成10） 満20歳以上の日本人の1,339（K型）1,341（M型）（選挙管理委員会での抽出）	1987～1993年にかけて（国により異なる） 18歳以上の男女 調査員による個別面接聴取法

（資料）各調査に係る公開資料より作成

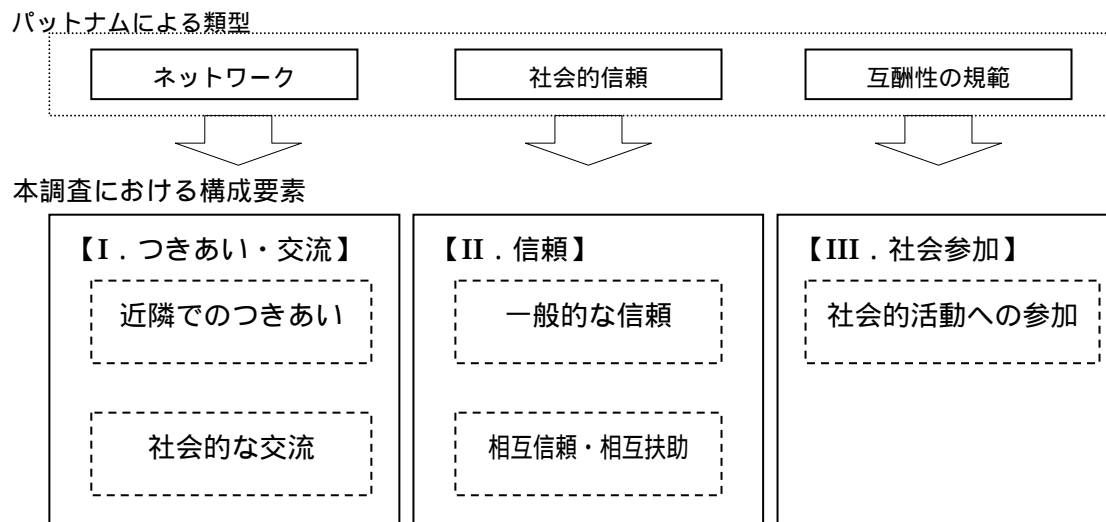
2. 定量分析のねらい、考え方

定量分析の第一のねらいは、ボランティア活動を始めとする市民活動とソーシャル・キャピタルとの間に相互作用の関係があるかどうかの検証である。ソーシャル・キャピタルの定量的な把握の方法としては、パットナムが行ったように、様々な側面から個人の意識や行動を捉え、その総体として捉えようとする方法が考えられるが、その指標の中にボランティア活動への参加など市民活動関連指標が取り上げられている場合が多い。このため、ソーシャル・キャピタルそのものを集計量として測定した上で、それと市民活動との関係を直接みるのではなく、ソーシャル・キャピタルの構成要素と市民活動がどのような関係にあるのかを分析するというアプローチを取ることとした。

(1) 想定するソーシャル・キャピタルの構成要素

ソーシャル・キャピタルの構成要素についても議論はありうるが、ここでは、パットナムによって示された「ネットワーク」「信頼」「規範」の3つの切り口を踏まえ、先に見たイギリスなどの調査項目の視点を参考にして、以下のように設定した。すなわち、「ネットワーク」に対応するものとして、近隣でのつきあいや社会的な交流を捉えた「つきあい・交流」の要素、他人に対する一般的な信頼と特定の人を対象とした相互信頼・相互扶助を捉えた「信頼」の要素、「規範」のうち、互酬性の規範のあらわれとして社会的活動への参加を捉えた「社会参加」の要素の3つである。

図表 III-4 想定するソーシャル・キャピタルの構成要素



これらの要素に対応する具体的な指標をリストアップしたものが、図表 III-5 である。個人の意識・行動を把握するために今回実施したアンケート調査から利用できる項目を左の欄に掲げている。右の「その他」の欄では、既存のデータ（「全国県民意識調査」（NHK放送文化研究所）、「社会生活基本調査」等の指標）の中から関連のものを掲げた。

なお、本調査で実施したアンケート調査は、郵送方式と Web 方式の 2 種類の方法で行った。その概要は、図表 III-6 のとおりである。両調査について回答者の属性の違いをみると、Web アンケートの方が郵送アンケートに比べ、30 歳代や 40 歳代等の世代の回答者率が高い、大都市部での回答者率が高いなどの特徴がある（調査結果の詳細については、参考資料 2 を参照）。

図表 III-5 ソーシャル・キャピタルの測定指標

構成要素	本調査アンケートでの調査項目	その他
つきあい・交流 (ネットワーク)	【近隣でのつきあい】 ・隣近所とのつきあいの程度 ・隣近所とつきあっている人の数 【社会的な交流】 ・友人・知人とのつきあい頻度 ・親戚とのつきあい頻度 ・スポーツ・趣味等活動への参加 ・職場の同僚とのつきあい頻度	・近隣とのつきあい（NHK 全国県民意識調査、以下 NHK 調査） ・仕事以外でのつきあい（NHK 調査） ・親戚とのつきあい（NHK 調査）
信 頼 (社会的信頼)	【一般的な信頼】 ・一般的な人への信頼 ・見知らぬ土地での人への信頼 【相互信頼・相互扶助】 ・近所の人々への期待・信頼 ・友人・知人への期待・信頼 ・親戚への期待・信頼 ・職場の同僚への期待・信頼	・近隣の人への信頼（NHK 調査） ・親戚への信頼（NHK 調査） ・仕事でつきあっている人への信頼（NHK 調査）
社会参加 (互酬性の規範)	・地縁的活動への参加 ・ボランティア・NPO・市民活動への参加	・ボランティア活動行動者率（社会生活基本調査） ・地域行事への参加意向（NHK 調査） ・人口一人当たり共同募金額

図表 III-6 ソーシャル・キャピタルアンケート調査の実施概要

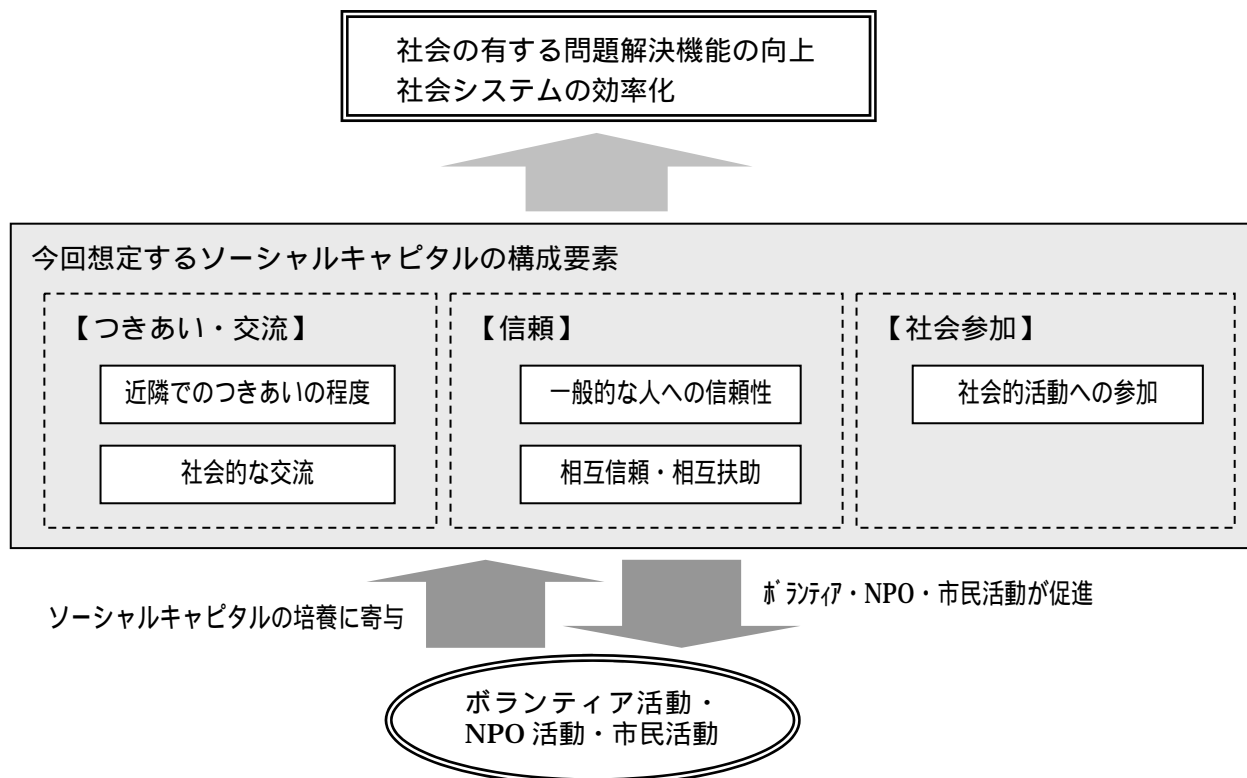
	郵送アンケート	Web アンケート
調査手法	郵送発送・回収方式	Web アンケートサイト上での回答方式
調査対象	全国の20歳以上の男女3,800名 (男女別、年齢別、地域ブロック別の層化抽出による)	全国15万人登録者のうちの2,000名
調査日時	平成15年2月25日～3月10日	プレ調査(200サンプル): 平成15年1月14日～同20日 本調査(1,800サンプル): 平成15年2月6日～同12日
有効回答数	1,878名	2,000名
設問内容	1. 他人への信頼について 2. 日常的なつきあいについて 3. 地域での活動状況について 4. 自身の生活状況と、個別の機関・人等への信頼・期待について 5. 回答者属性	

(2) 分析項目

以下では、アンケート調査結果等を用い、次の5つの項目について、定量的な検証・分析を行う。

分析項目 i	ソーシャル・キャピタルの各構成要素の間には、どのような関係があるのか。それは、相互に依存・波及する関係であり、互いに高めあう可能性があるのではないか？
分析項目 ii	なかでも、ボランティア活動を始めとする市民活動は上記の各構成要素を活性化し、全体を高めるトリガーとしての可能性を有しているのではないか？
分析項目 iii	わが国のソーシャル・キャピタルの蓄積状況は、地域別にみてどのようなになっているのか？
分析項目 iv	ソーシャル・キャピタルの蓄積は、わが国の国民生活面等の改善をもたらす一つの要素なのではないか？
分析項目 v	わが国のソーシャル・キャピタルの蓄積状況は、変化してきているのか？

図表 III-7 ソーシャル・キャピタルの構成要素、および社会成果との関係（仮説）

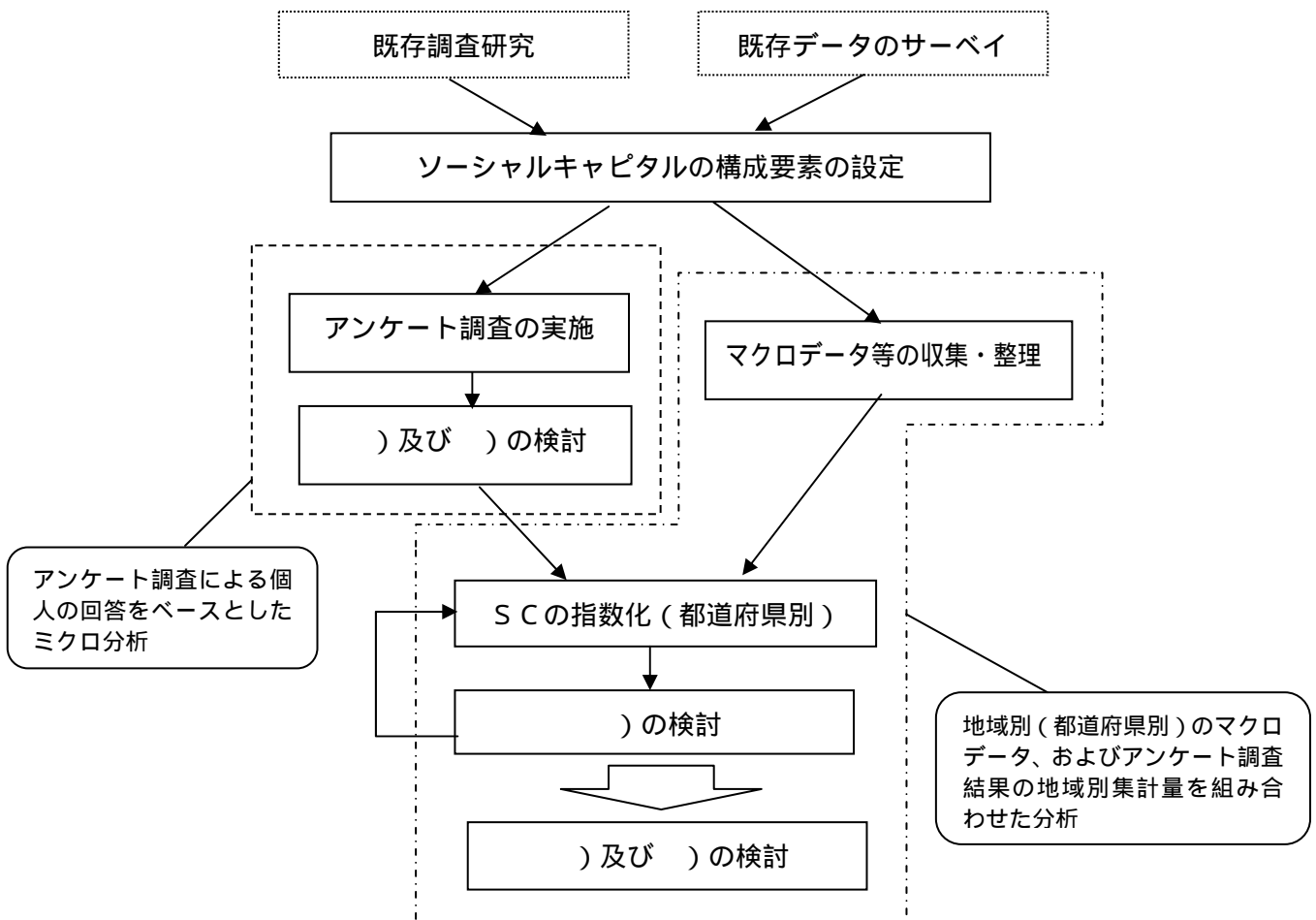


(3) 分析の手順

以上 5 つの分析項目を下図の手順によって検討していく。
 なお、分析項目 i 及び ii については、分析に利用できる既存データが不十分であり、また構成要素間の詳細な分析をおこなう必要性から、今回実施したアンケート調査結果を利用して、個人の回答レベルでの検証を行う。

一方、分析項目 iii 及び iv については、アンケート調査結果とともに、既存統計のマクロ的な指標も用い、都道府県の地域レベルでの分析を行う。分析項目 v については、ソーシャル・キャピタルのいくつかの関連指標を取り上げ、その時系列比較を行うことによって検討する。

図表 III-8 分析の手順



3. ソーシャル・キャピタルの構成要素と市民活動との関係

(1) ソーシャル・キャピタルの各要素間関係

ここでは、ソーシャル・キャピタルの3つの構成要素間関係を概観する。このため、アンケート調査から、(i)「つきあい・交流」や「社会参加」を活発に行っている人は、他の人と比べて人に対する「信頼」感が高いのかどうか、(ii)人が「信頼」できると思っている人や「社会参加」を活発に行っている人は、他の人と比べて「つきあい・交流」が活発なのかどうかを考察した。

図表 III-9 は、前者 (i) の関係についてクロス集計したエッセンスを整理したものである (クロス集計の詳細な結果は、資料編参考資料 2 を参照)。

これによると、例えば、一般的な人への信頼について、「ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合は、郵送調査の場合、全体で 24.8% であるのに対して、隣近所とのつきあい程度が高く「生活面で協力」している人達だけについてその回答割合をみると、32.4% と高い。このように、郵送版調査、WEB 版調査ともに、ほぼ一様に、「つきあい・交流」や「社会参加」の程度が高い集団は、「信頼」の各指標とも全体の平均値を上回っている結果となっている。

図表 III-10 は、後者 (ii) の関係について同様に整理したものである (クロス集計の詳細な結果は、資料編参考資料 2 を参照)。ここでも、郵送版調査、WEB 版調査の両者とも、ほぼ一様に、「信頼」や「社会参加」の程度が高い集団において、「つきあい・交流」の各指標が高いという関係がみられた。

以上のように、各構成要素 (つきあい・交流、信頼、社会参加) の程度が高い集団ほど、他の構成要素でも高い回答割合となる傾向がみられることから、ソーシャル・キャピタルの3つの構成要素間には相互波及的に影響を及ぼす (互いに他要素を高めあう) 可能性があるといえる。

図表 III-9 各要素間の関係(「つきあい・交流」「社会参加」の程度の高い人達の「信頼」感)

(郵送版)

			一般的な信頼		相互信頼・相互扶助				
			一般的な人への信頼	見知らぬ土地での人への信頼	近所の人々への信頼	親戚への信頼	友人・知人への信頼	職場の同僚への信頼	
			「ほとんどの人は信頼できる」との回答率(%)	「ほとんどの人は信頼できる」との回答率(%)	大いに頼りになる=2、ある程度頼りになる=1、どちらともいえない=0、あまり頼りにできない=-1、全く頼りにできない=-2としたときの平均得点	左に同じ	左に同じ	左に同じ	
全サンプル			1,878	24.8	18.9	-0.06	0.48	0.71	0.01
近隣でのつきあい	隣近所とのつきあいの程度	「生活面で協力」と回答したサンプル	432	32.4 (+ 7.6)	24.3 (+ 5.4)	0.71 (+ 0.8)	0.71 (+ 0.2)	1.01 (+ 0.3)	0.17 (+ 0.2)
	隣近所とつきあっている人の数	「かなり多くの人と面識・交流がある」と回答したサンプル	340	37.4 (+ 12.5)	26.5 (+ 7.6)	0.53 (+ 0.6)	0.73 (+ 0.2)	0.87 (+ 0.2)	0.10 (+ 0.1)
社会的な交流	知人・友人とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	421	27.8 (+ 3.0)	18.5 (- 0.4)	0.27 (+ 0.3)	0.58 (+ 0.1)	1.08 (+ 0.4)	0.20 (+ 0.2)
	親戚・親類とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	201	21.9 (- 2.9)	17.9 (- 1.0)	0.34 (+ 0.4)	0.72 (+ 0.2)	1.05 (+ 0.3)	0.58 (+ 0.6)
	職場の同僚とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	165	28.5 (+ 3.7)	20.6 (+ 1.7)	0.39 (+ 0.4)	1.15 (+ 0.7)	1.00 (+ 0.3)	0.12 (+ 0.1)
	スポーツ・趣味・娯楽活動	「参加している」と回答したサンプル	581	28.2 (+ 3.4)	20.8 (+ 1.9)	0.08 (+ 0.1)	0.58 (+ 0.1)	0.79 (+ 0.1)	0.01 (+ 0.00)
社会参加	地縁活動	「参加している」と回答したサンプル	666	30.6 (+ 5.8)	22.5 (+ 3.6)	0.25 (+ 0.3)	0.60 (+ 0.1)	0.77 (+ 0.1)	0.06 (+ 0.05)
	ボランティア・NPO・市民活動	「参加している」と回答したサンプル	315	34.3 (+ 9.5)	25.4 (+ 6.5)	0.20 (+ 0.3)	0.63 (+ 0.1)	0.92 (+ 0.2)	0.01 (+ 0.00)
	ボランティアへの活動意向	「新たに参加したい」と回答したサンプル	244	26.6 (+ 1.8)	22.1 (+ 3.2)	-0.13 (- 0.1)	0.53 (+ 0.05)	0.68 (- 0.03)	0.08 (+ 0.1)

(WEB版)

			一般的な信頼		相互信頼・相互扶助				
			一般的な人への信頼	見知らぬ土地での人への信頼	近所の人々への信頼	親戚への信頼	友人・知人への信頼	職場の同僚への信頼	
			「ほとんどの人は信頼できる」との回答率(%)	「ほとんどの人は信頼できる」との回答率(%)	大いに頼りになる=2、ある程度頼りになる=1、どちらともいえない=0、あまり頼りにできない=-1、全く頼りにできない=-2としたときの平均得点	左に同じ	左に同じ	左に同じ	
全サンプル			2,000	22.6	17.2	-0.54	0.04	0.50	-0.33
近隣でのつきあい	隣近所とのつきあいの程度	「生活面で協力」と回答したサンプル	214	33.6 (+ 11.1)	24.3 (+ 7.1)	0.27 (+ 0.8)	0.22 (+ 0.2)	0.82 (+ 0.3)	-0.24 (+ 0.1)
	隣近所とつきあっている人の数	「かなり多くの人と面識・交流がある」と回答したサンプル	198	31.3 (+ 8.8)	25.3 (+ 8.1)	0.16 (+ 0.7)	0.25 (+ 0.2)	0.75 (+ 0.3)	-0.26 (+ 0.1)
社会的な交流	知人・友人とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	280	25.7 (+ 3.2)	18.9 (+ 1.8)	-0.39 (+ 0.2)	0.06 (+ 0.03)	0.98 (+ 0.5)	-0.22 (+ 0.1)
	親戚・親類とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	83	31.3 (+ 8.8)	26.5 (+ 9.4)	-0.57 (- 0.03)	0.00 (- 0.04)	0.59 (+ 0.1)	0.28 (+ 0.6)
	職場の同僚とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	88	27.3 (+ 4.7)	18.2 (+ 1.0)	-0.20 (+ 0.3)	0.75 (+ 0.7)	0.58 (+ 0.1)	-0.35 (- 0.02)
	スポーツ・趣味・娯楽活動	「参加している」と回答したサンプル	295	29.8 (+ 7.3)	20.7 (+ 3.5)	-0.23 (+ 0.3)	0.17 (+ 0.1)	0.69 (+ 0.2)	-0.23 (+ 0.1)
社会参加	地縁活動	「参加している」と回答したサンプル	607	24.5 (+ 2.0)	16.6 (- 0.5)	-0.18 (+ 0.4)	0.13 (+ 0.1)	0.57 (+ 0.1)	-0.36 (- 0.02)
	ボランティア・NPO・市民活動	「参加している」と回答したサンプル	178	29.2 (+ 6.7)	24.7 (+ 7.6)	-0.29 (+ 0.2)	0.03 (- 0.01)	0.74 (+ 0.2)	-0.21 (+ 0.1)
	ボランティアへの活動意向	「新たに参加したい」と回答したサンプル	238	23.9 (+ 1.4)	19.3 (+ 2.2)	-0.51 (+ 0.03)	0.15 (+ 0.1)	0.73 (+ 0.2)	-0.31 (+ 0.02)

(注1) 各項目の下段の()内は、全サンプルでの回答率との差分を示す。

(注2) この差分がプラスの項目については網掛けを施している。

図表 III-10 各要素間の関係（「信頼」「社会参加」の程度の高い人達の「つきあい・交流」の程度）

（郵送版）

			サンプル数	近隣でのつきあい		社会的な交流			
				隣近所とのつきあいの程度	隣近所とつきあっている人の数	知人・友人とのつきあい頻度	親戚・親類とのつきあい頻度	職場の同僚とのつきあい頻度	スポーツ・趣味・娯楽活動
				「生活面で協力」との回答率(%)	「かなり多くの人と面識・交流がある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「参加している」との回答率(%)
全サンプル			1,878	23.0	18.1	22.4	10.7	8.8	30.9
一般的な信頼	一般的な人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	466	30.0 (+ 7.0)	27.3 (+ 9.1)	25.1 (+ 2.7)	9.4 (- 1.3)	10.1 (+ 1.3)	35.2 (+ 4.3)
	見知らぬ土地での人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	355	29.6 (+ 6.6)	25.4 (+ 7.2)	22.0 (- 0.4)	10.1 (- 0.6)	9.6 (+ 0.8)	34.1 (+ 3.1)
相互信頼・相互扶助	近所の人々への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	99	64.6 (+ 41.6)	41.4 (+ 23.3)	52.5 (+ 30.1)	25.3 (+ 14.5)	18.2 (+ 9.4)	37.4 (+ 6.4)
	親戚への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	329	29.5 (+ 6.5)	24.0 (+ 5.9)	27.96 (+ 5.5)	24.62 (+ 13.9)	16.11 (+ 7.3)	33.74 (+ 2.8)
	友人・知人への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	333	32.7 (+ 9.7)	21.3 (+ 3.2)	39.0 (+ 16.6)	16.8 (+ 6.1)	16.8 (+ 8.0)	33.9 (+ 3.0)
	職場の同僚への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	106	25.5 (+ 2.5)	16.0 (- 2.1)	79.2 (+ 56.8)	14.2 (+ 3.4)	33.0 (+ 24.2)	30.2 (- 0.7)
社会参加	地縁活動	「参加している」と回答したサンプル	666	33.2 (+ 10.2)	32.0 (+ 13.9)	26.1 (+ 3.7)	13.4 (+ 2.7)	11.1 (+ 2.3)	42.6 (+ 11.7)
	ボランティア・NPO・市民活動	「参加している」と回答したサンプル	315	36.2 (+ 13.2)	36.2 (+ 18.1)	31.1 (+ 8.7)	13.7 (+ 2.9)	13.7 (+ 4.9)	56.2 (+ 25.3)
	ボランティアへの活動意向	「新たに参加したい」と回答したサンプル	244	36.8 (+ 13.8)	37.0 (+ 18.9)	29.2 (+ 6.7)	31.0 (+ 20.3)	24.7 (+ 15.9)	18.0 (- 12.9)

（WEB版）

			サンプル数	近隣でのつきあい		社会的な交流			
				隣近所とのつきあいの程度	隣近所とつきあっている人の数	知人・友人とのつきあい頻度	親戚・親類とのつきあい頻度	職場の同僚とのつきあい頻度	スポーツ・趣味・娯楽活動
				「生活面で協力」との回答率(%)	「かなり多くの人と面識・交流がある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「日常的にある」との回答率(%)	「参加している」との回答率(%)
全サンプル			2,000	10.7	9.9	14.0	4.4	4.2	14.8
一般的な信頼	一般的な人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	451	16.0 (+ 5.3)	13.7 (+ 3.8)	16.0 (+ 2.0)	5.3 (+ 0.9)	5.8 (+ 1.6)	19.5 (+ 4.8)
	見知らぬ土地での人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	343	15.2 (+ 4.5)	14.6 (+ 4.7)	15.5 (+ 1.5)	4.7 (+ 0.3)	6.4 (+ 2.3)	17.8 (+ 3.0)
相互信頼・相互扶助	近所の人々への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	51	43.1 (+ 32.4)	31.4 (+ 21.5)	21.6 (+ 7.6)	5.9 (+ 1.5)	2.0 (- 2.2)	29.4 (+ 14.7)
	親戚への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	208	15.4 (+ 4.7)	13.9 (+ 4.0)	18.27 (+ 4.3)	12.02 (+ 7.6)	3.37 (- 0.8)	17.31 (+ 2.6)
	友人・知人への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	308	14.9 (+ 4.2)	13.0 (+ 3.1)	28.6 (+ 14.6)	4.5 (+ 0.1)	4.9 (+ 0.7)	18.8 (+ 4.1)
	職場の同僚への信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	75	13.3 (+ 2.6)	13.3 (+ 3.4)	18.7 (+ 4.7)	1.3 (- 3.1)	12.0 (+ 7.9)	13.3 (- 1.4)
社会参加	地縁活動	「参加している」と回答したサンプル	607	18.6 (+ 7.9)	22.6 (+ 12.7)	14.7 (+ 0.7)	5.6 (+ 1.2)	3.8 (- 0.4)	25.7 (+ 11.0)
	ボランティア・NPO・市民活動	「参加している」と回答したサンプル	178	20.2 (+ 9.5)	30.3 (+ 20.4)	21.3 (+ 7.3)	3.9 (- 0.5)	5.6 (+ 1.5)	42.1 (+ 27.4)
	ボランティアへの活動意向	「新たに参加したい」と回答したサンプル	238	19.1 (+ 8.4)	21.1 (+ 11.2)	18.5 (+ 4.5)	13.7 (+ 9.3)	17.2 (+ 13.0)	11.8 (- 3.0)

（注1）各項目の下段の（ ）内は、全サンプルでの回答率との差分を示す。

（注2）この差分がプラスの項目については網掛けを施している。

(2) ソーシャル・キャピタルの構成要素と市民活動との関連性

ここでは、ソーシャル・キャピタルの構成要素とボランティア活動を始めとする市民活動との関連性について、アンケート調査結果から以下の分析を行い、市民活動の促進がソーシャル・キャピタル培養に寄与し、また培養されたソーシャル・キャピタルが新たなに活動を促すという関係を検証する。

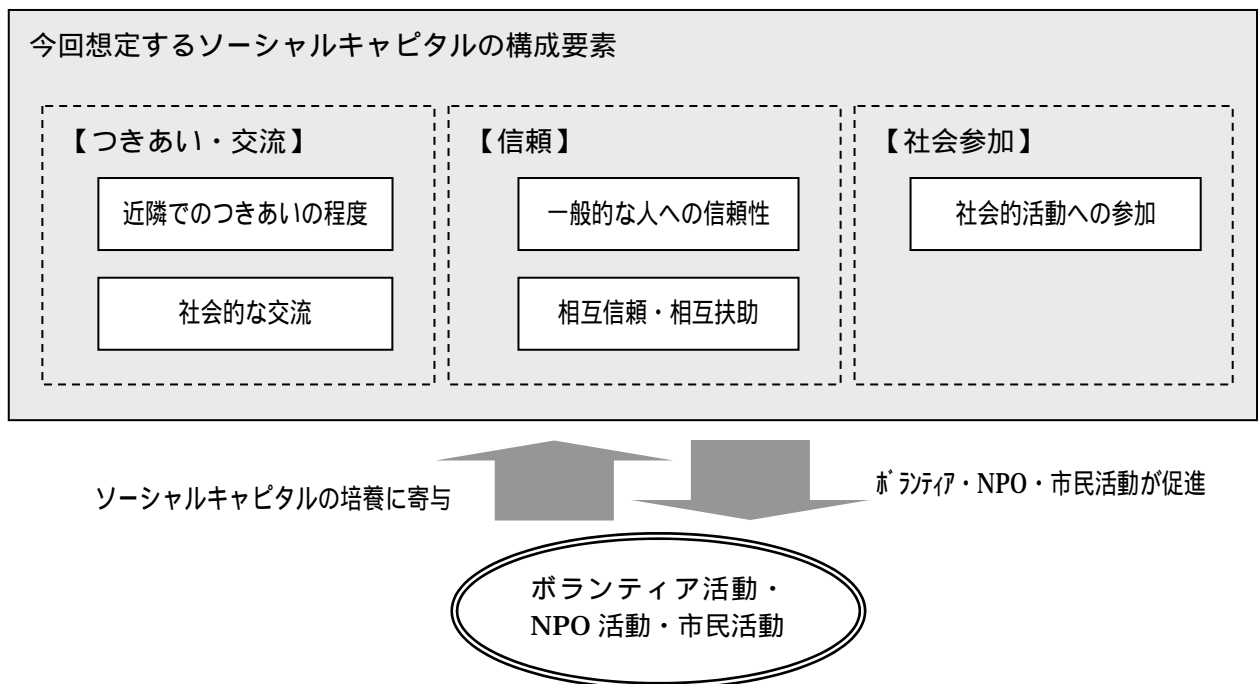
具体的には、次に挙げる3つの仮説を検証する。

(i) ソーシャル・キャピタルの各要素と市民活動とは相関関係にある（相互に高めあう可能性がある）。

(ii) 市民活動を通じて、ソーシャル・キャピタルが培養される（可能性がある）。

(iii) ソーシャル・キャピタルが豊かならば、市民活動への参加が促進される（可能性がある）。

図表 III-11 ソーシャル・キャピタルの各要素と市民活動との関連性



(i) ソーシャル・キャピタル各要素と市民活動との相関

図表 III-12 は、ソーシャル・キャピタルの各要素に係わる指標とボランティア・NPO・市民活動への参加状況との関係を整理したものである。これによると、ソーシャル・キャピタルの要素である「つきあい・交流」「信頼」「社会参加」に係わる項目でその程度が高いと回答した人達が、ボランティア・NPO・市民活動を行っているとする回答割合が高いことが窺える（全サンプルでの平均的な割合に対して、相対的に高い割合となっている）。郵送版、WEB版いずれとも同様の傾向がみられる（クロス集計の詳細な結果については、資料編参考資料2を参照）。

一方、先の図表 III-9 及び図表 III-10 にみられるとおり、ボランティア・NPO・市民活動を行っている人達は、「つきあい・交流」や「信頼」の程度が高い傾向にあることも窺える。

こうしたことから、ソーシャル・キャピタルの各要素とボランティア活動を始めとする市民活動の間には、一定の相関（正の相関）のあることが推測される。

図表 III-12 各要素とボランティア・NPO・市民活動との関係

			郵送版		WEB版	
			サンプル数	ボランティア・NPO・市民活動「参加している」との回答率(%)	サンプル数	ボランティア・NPO・市民活動「参加している」との回答率(%)
全サンプル			1,878	16.8	2,000	8.9
一般的な信頼	一般的な人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	466	23.2 (+ 6.4)	451	11.5 (+ 2.6)
	見知らぬ土地での人への信頼	「ほとんどの人は信頼できる」と回答したサンプル	355	22.5 (+ 5.8)	343	12.8 (+ 3.9)
相互信頼・相互扶助	近所の人々への期待・信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	99	32.3 (+ 15.6)	51	15.7 (+ 6.8)
	親戚への期待・信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	329	20.4 (+ 3.6)	208	10.1 (+ 1.2)
	友人・知人への期待・信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	333	22.5 (+ 5.7)	308	11.0 (+ 2.1)
	職場の同僚への期待・信頼	「大いに頼りになる」と回答したサンプル	106	18.9 (+ 2.1)	75	6.7 (- 2.2)
近隣でのつきあい	隣近所とのつきあいの程度	「生活面で協力」と回答したサンプル	432	26.4 (+ 9.6)	214	16.8 (+ 7.9)
	隣近所とつきあっている人の数	「かなり多くの人と面識・交流がある」と回答したサンプル	340	33.5 (+ 16.8)	198	27.3 (+ 18.4)
社会的な交流	知人・友人とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	421	23.3 (+ 6.5)	280	13.6 (+ 4.7)
	職場の同僚とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	165	26.1 (+ 9.3)	83	12.0 (+ 3.1)
	親戚・親類とのつきあい頻度	「日常的にある」と回答したサンプル	201	21.4 (+ 4.6)	88	8.0 (- 0.9)
	スポーツ・趣味・娯楽活動	「参加している」と回答したサンプル	581	30.5 (+ 13.7)	295	25.4 (+ 16.5)
社会参加	地縁活動	「参加している」と回答したサンプル	666	29.7 (+ 12.9)	607	18.8 (+ 9.9)
	居住地域での地縁活動の状況	「非常に盛んである」と回答したサンプル	332	29.2 (+ 12.4)	206	18.4 (+ 9.5)

(注1) 各項目の下段の()内は、全サンプルでの回答率との差分を示す。

(注2) この差分がプラスの項目については網掛けを施している。

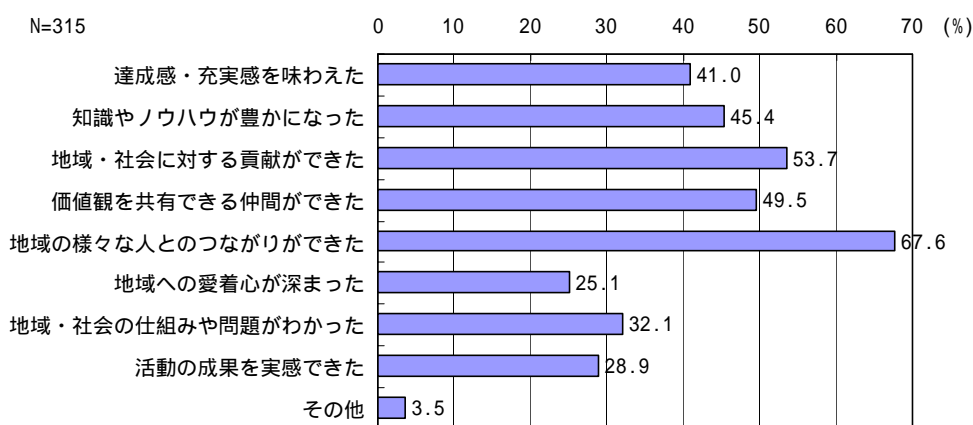
(ii) 市民活動を通じたソーシャル・キャピタル培養の可能性

以上は、アンケート調査のクロス集計から、やや間接的に市民活動とソーシャル・キャピタルの各要素との関係を見たが、ボランティア・NPO・市民活動を通じてソーシャル・キャピタルが培養されていく可能性について、アンケート調査から関連する結果の分析を行う。

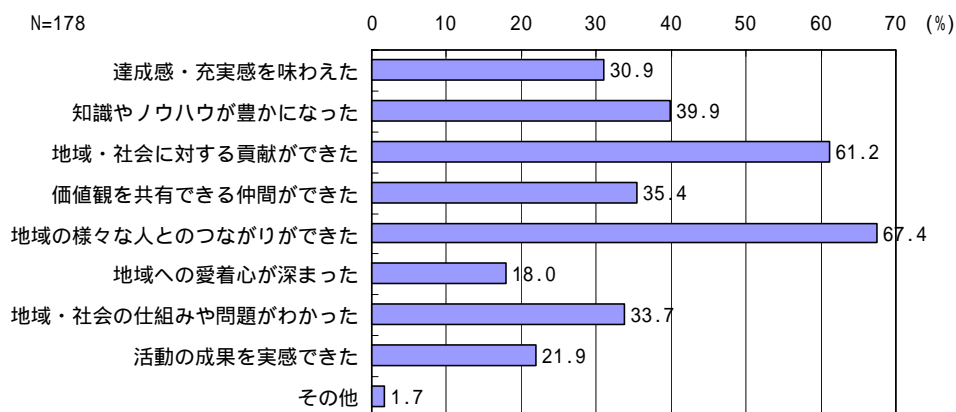
図表 III-13 では、ボランティア・NPO・市民活動の参加者に対して、活動参加によって得たものについての回答結果を示した。これによると、郵送版調査、WEB 調査ともに、「得たもの」の中では「地域の様々な人とのつながりができた」との回答率が最も高い。また、図表 III-14 は地縁的活動やスポーツ・趣味・娯楽活動等と比較したものであるが、地縁的活動とほぼ並んで回答率が高い結果となっている。

図表 III-13 ボランティア・NPO・市民活動への参加によって得たこと

(郵送版)

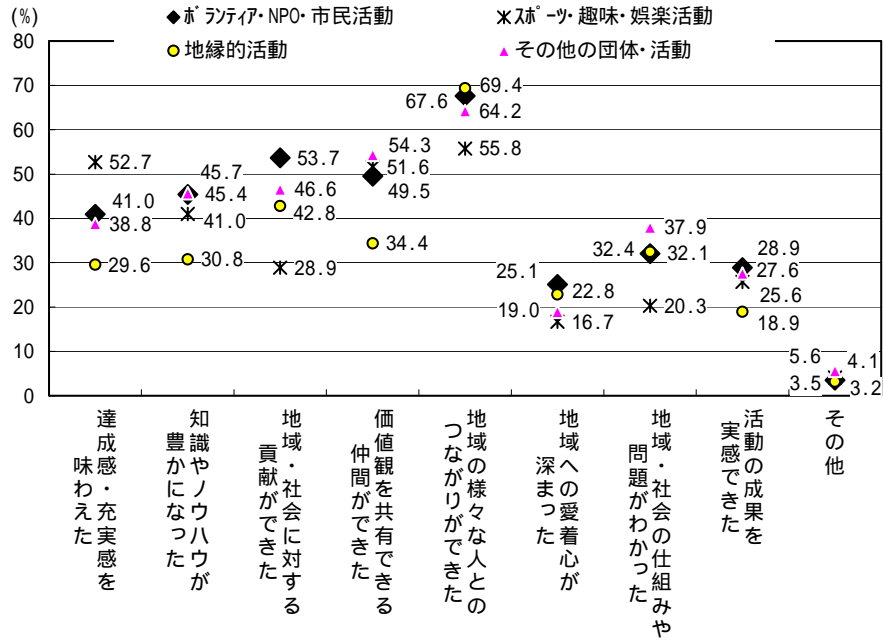


(WEB版)

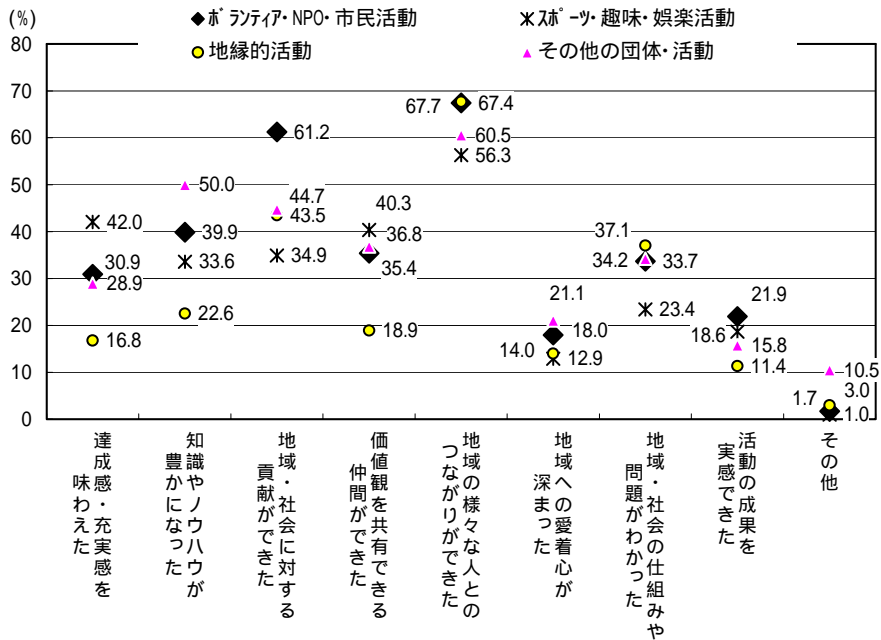


図表 III-14 他活動との比較

(郵送版)



(WEB 版)

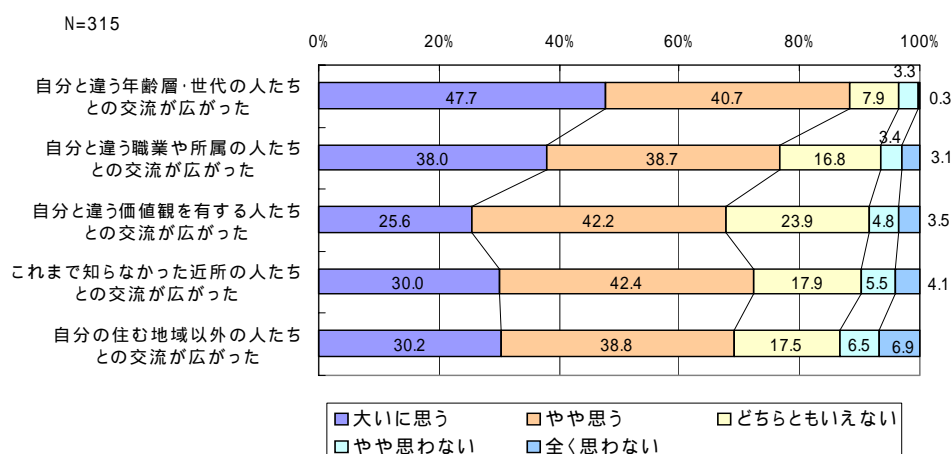


図表 III-15 では、ボランティア・NPO・市民活動参加者に対して、どのような交流・つきあいの広がりを感じたかの回答結果である。各項目とも「やや思う」「大いに思う」との回答が多く、活動参加によって交流・つきあいの範囲が広がっていく効果が推測される。また図表 III-16 では他活動との比較結果を示しているが、特に地縁的活動と比較すると、居住地域を越えた交流・つきあいをはじめ、多様な人達との交流・つながりが広がっている様子が窺えるのが特徴である。

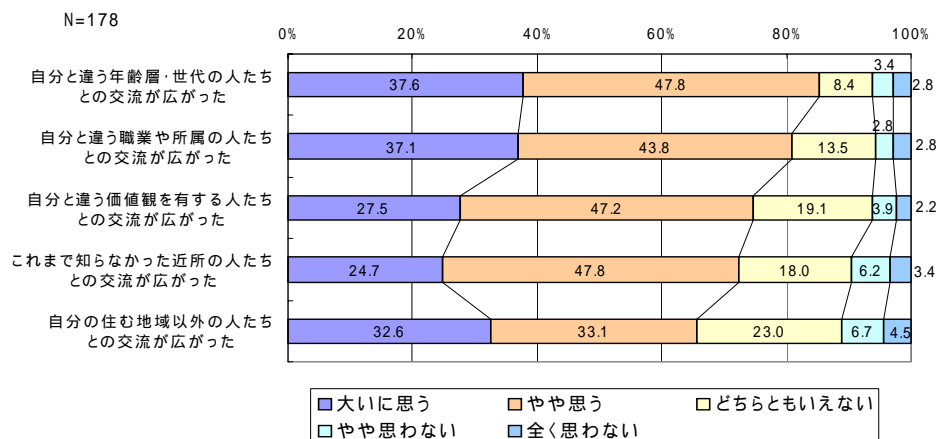
以上から、ボランティア・NPO・市民活動への参加は、個人の交流やつきあいの範囲を広げていくことを通じて、ソーシャル・キャピタル培養に寄与していく可能性があることを指摘できる。

図表 III-15 活動参加を通じて、どのような交流・つきあいの広がりを感じたか

(郵送版)

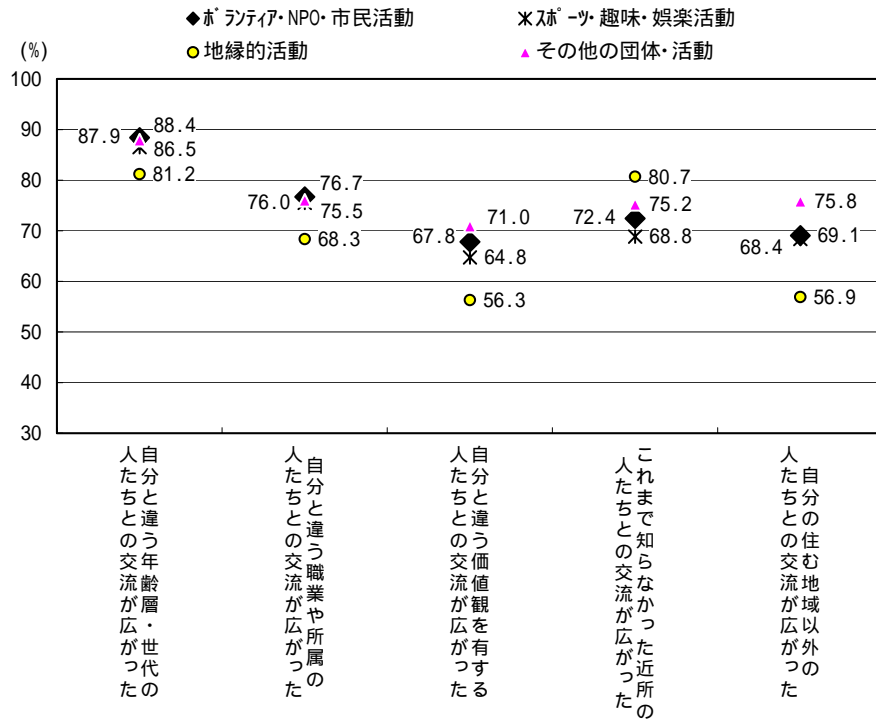


(WEB版)

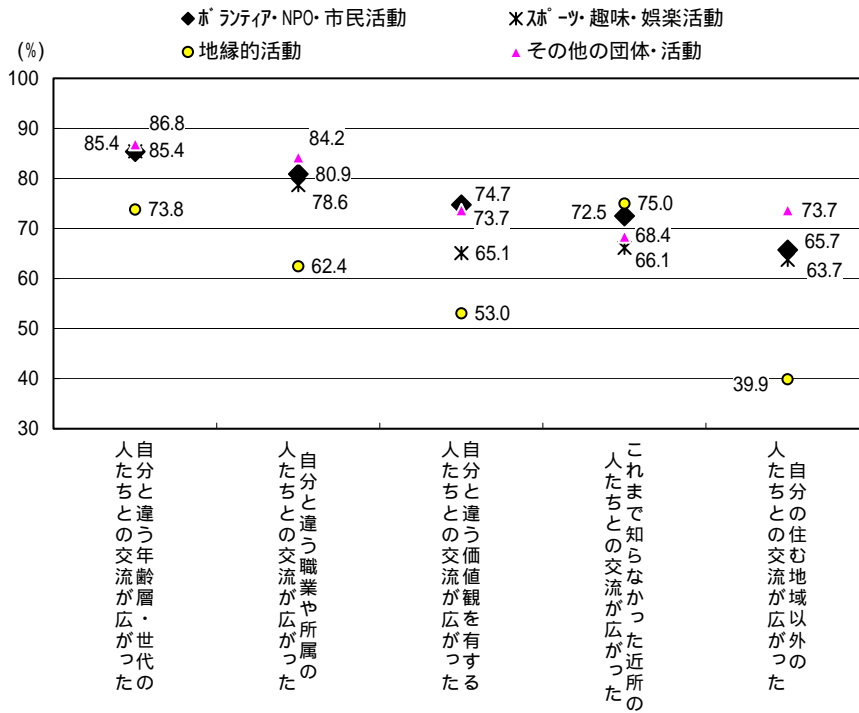


図表 III-16 活動参加を通じて、どのような交流・つきあいの広がりを感じたか（他活動との比較）

（郵送版）



（WEB版）



また、図表 III-17 では、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人が地域における他の活動にどの程度参加しているかをみたものである。ボランティア・NPO・市民活動への参加者は、地縁的な活動やスポーツ・趣味・娯楽活動にも参加している割合が高い。図表 III-18 のとおり、活動参加のきっかけをみると、地縁的な活動は慣習・ルールとして参加した人がかなりを占めるのに対して、ボランティア・NPO・市民活動では多くの人自身が関心や必要性により参加している。このように、ボランティア活動を始めとする市民活動に参加する人は、自発的にしかも多様な活動に積極的に参加しており、こうした面からも、ソーシャル・キャピタルの培養に貢献している可能性が窺われる。

図表 III-17 他の活動に重複して参加している割合

(郵送版)

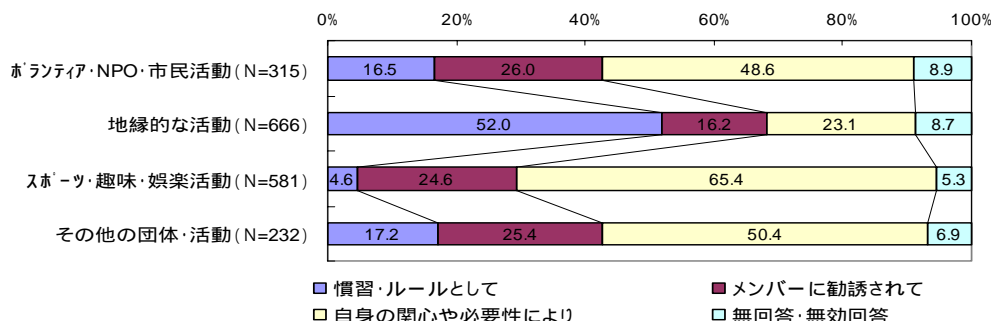
参加活動	サンプル数	参加しているその他の活動 (%)				
		ボランティア・NPO・市民活動	地縁的な活動	スポーツ・趣味・娯楽活動	その他の団体・活動	他には活動には参加していない
ボランティア・NPO・市民活動	315		62.9	56.2	31.7	17.8
地縁的な活動	666	29.7		42.6	20.1	40.5
スポーツ・趣味・娯楽活動	581	30.5	48.9		16.9	39.2
その他の団体・活動	232	43.1	57.8	42.2		23.3

(WEB版)

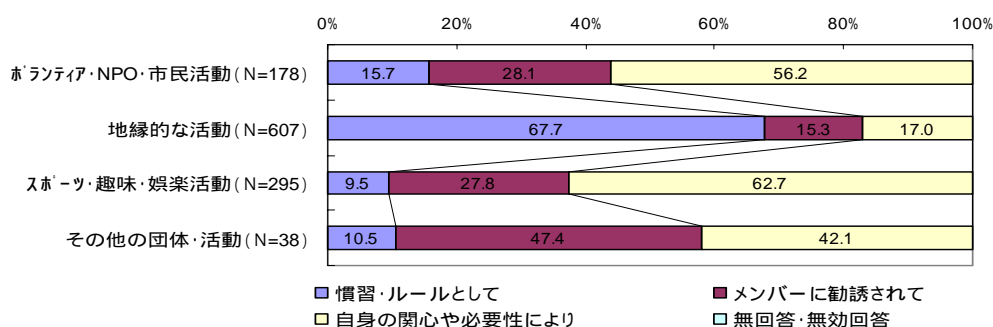
参加活動	サンプル数	参加しているその他の活動 (%)				
		ボランティア・NPO・市民活動	地縁的な活動	スポーツ・趣味・娯楽活動	その他の団体・活動	他には活動には参加していない
ボランティア・NPO・市民活動	178		64.0	42.1	9.0	21.9
地縁的な活動	607	18.8		25.7	2.8	63.8
スポーツ・趣味・娯楽活動	295	25.4	52.9		4.7	38.6
その他の団体・活動	38	42.1	44.7	36.8		31.6

図表 III-18 活動参加のきっかけ

(郵送版)



(WEB 版)



(iii) ソーシャル・キャピタル蓄積による市民活動促進の可能性

ここでは、ソーシャル・キャピタルの各要素にあたる「信頼」「つきあい・交流」の程度の高い人が、実際に市民活動に積極的に参加する意欲がみられるのかを、アンケート調査から分析し、ソーシャル・キャピタル蓄積による市民活動促進の可能性を探る。

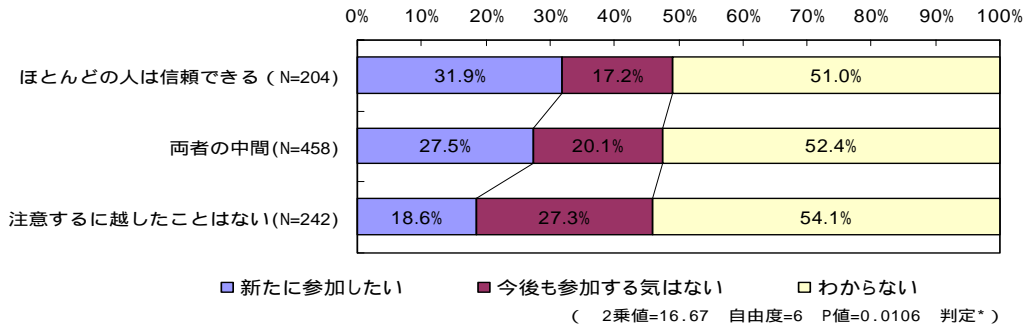
図表 III-19～23 は、現在、ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人について、今後の活動への参加意向をみたものである。

これによると、郵送版調査と WEB 調査とでやや相違する面もあるが、概ね社会への信頼度やつきあいの範囲、頻度が高い集団の方が、ボランティア・NPO・市民活動に今後「新たに参加したい」との回答率が高く、「今後も参加する気はない」との回答率が低いことが読み取れる。

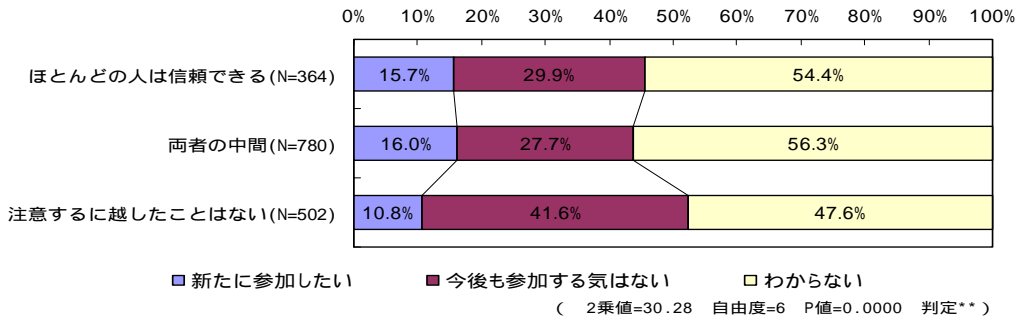
このように、信頼やネットワークといったソーシャル・キャピタルの要素の培養が、活動を促進していく土壌を育む可能性が考えられる。

図表 III-19 現在ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の、今後の参加意向
(一般的な人々への信頼度別)

(郵送版)

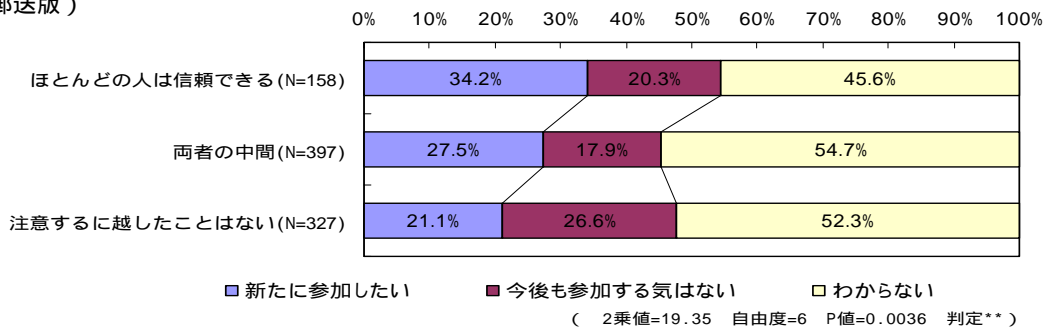


(WEB版)

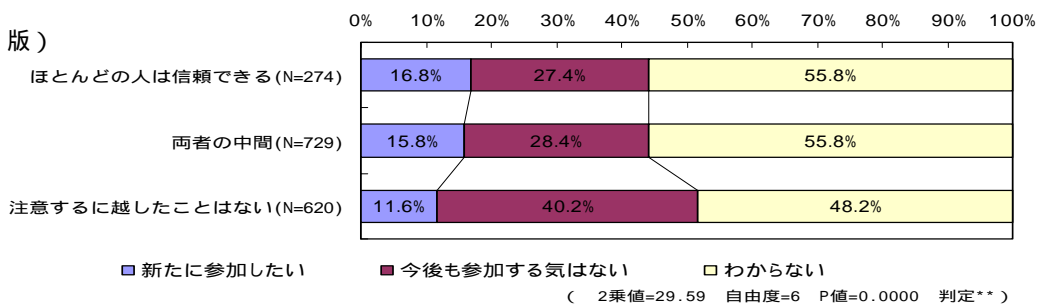


図表 III-20 現在ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の、今後の参加意向
(見知らぬ土地での信頼度別)

(郵送版)

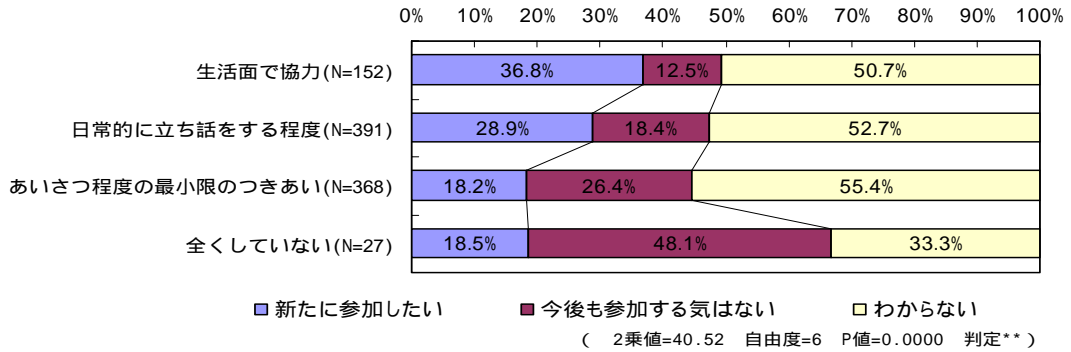


(WEB版)

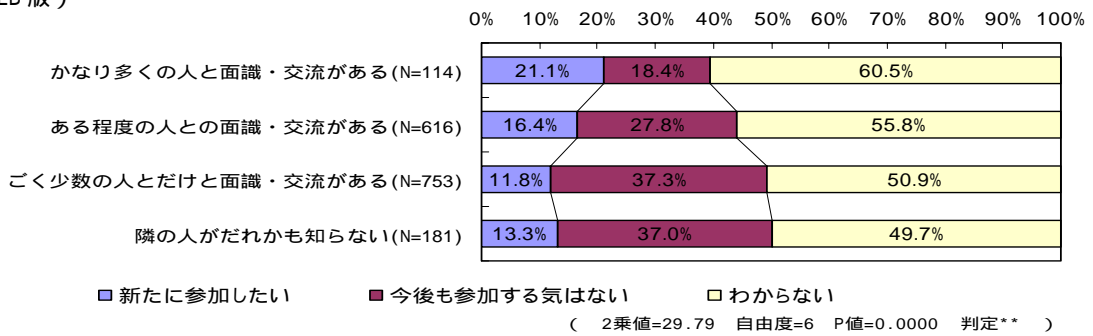


図表 III-21 現在ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の、今後の参加意向
(近所との付き合いの程度別)

(郵送版)

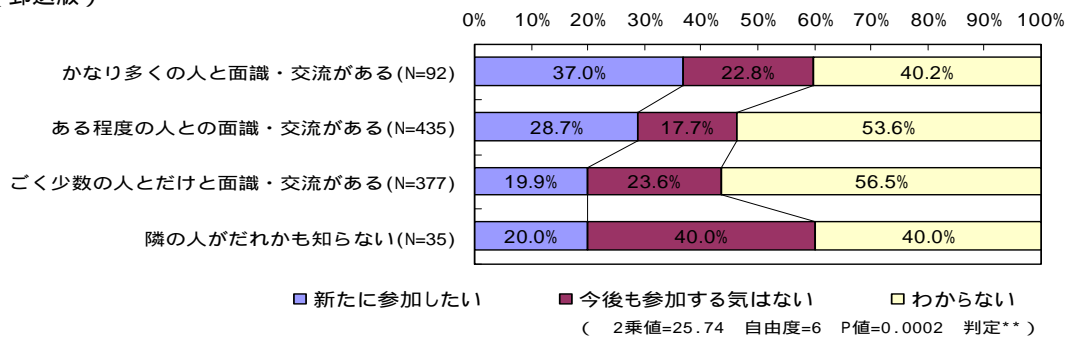


(WEB版)

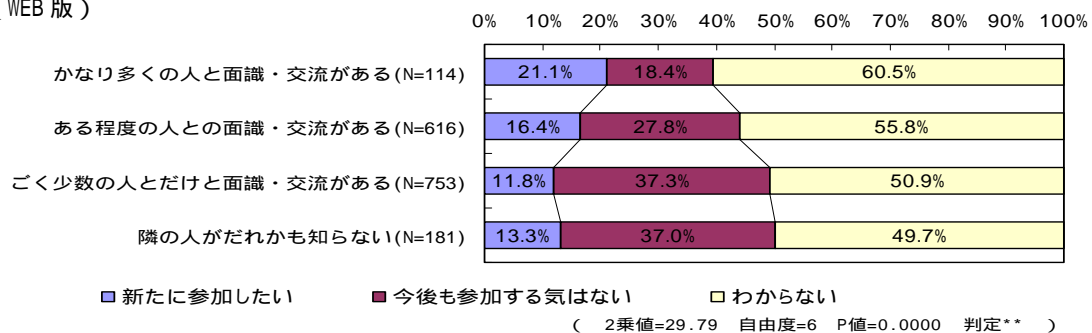


図表 III-22 現在ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の、今後の参加意向
(近所でつきあいのある人の数別)

(郵送版)

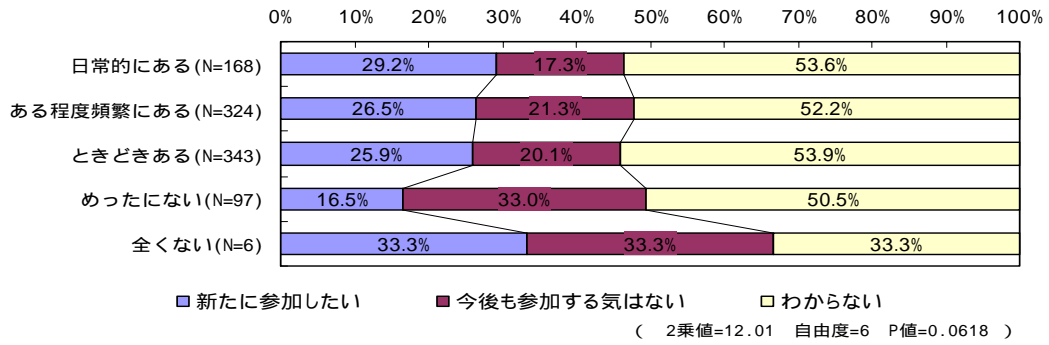


(WEB版)

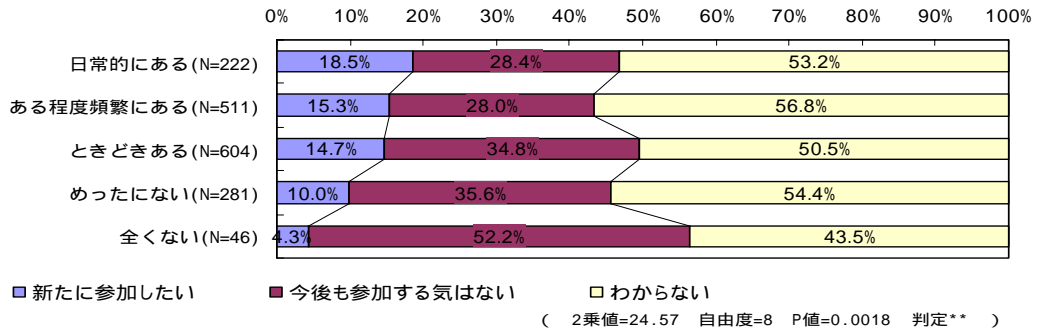


図表 III-23 現在ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の、今後の参加意向
 (友人・知人との職場外でのつきあいの頻度別)

(郵送版)



(WEB版)



(iv)まとめ

以上の分析をまとめると、次のとおりである。

ソーシャル・キャピタルの各要素と市民活動の間には一定の相関（正の相関）があることが推測される。

市民活動の活性化を通じて、ソーシャル・キャピタルが培養される可能性がある。

ソーシャル・キャピタルが豊かならば、市民活動への参加が促進される可能性がある。

こうしたことから、ソーシャル・キャピタルの培養とボランティア活動を始めとする市民活動の活性化には、互いに他を高めていくような関係、すなわち、「ポジティブ・フィードバック」な関係性がある可能性があるものと考えられる（図表 III-24）。

図表 III-24 ソーシャル・キャピタルと市民活動の関係

